

雲　　び　　ら

み空の懐ふところより、鬢ひたなす雲の衣より、

葉かげなき森に、見すてられにし畑に、

音もなく、おだやかに、靜かに、降る雲

我等が山なす空想の、ふと、ある聖まき姿にあらはるゝこと、

わづらひある心の、眞ま白しろき容貌すがたして云ひあらはすこと、

なやめるみ空が、うげにし苦しみを洩らす其の聲。

これこそは、音なき譜もて、靜かに記さるゝ、み空の詩、

これこそは、永くも雲の胸ふかく刻まれて、

望のぞみなかりし秘密ひみつな、

今し、森に、畑に、さゝやき洩らす、其の聲。

(ロンケフェロー)